

学校法人御船学園 令和4年度事業報告書

1. 法人の概要

I 法人の基本情報

法人の名称	学校法人御船学園
所在地	熊本県上益城郡御船町大字滝川字東原 1658 番地
電話番号	096(282)0506
FAX番号	096(282)7800
メールアドレス	info@heisei-music.ac.jp
ホームページアドレス	https://www.heisei-music.ac.jp/
設置する学校名	平成音楽大学

II 建学の精神

【建学の精神】

九州から音楽文化を発信する。

【大学の目的】

本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の練磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。(学則第2条)

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探究
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、「豊かな感受性」と「和の心」を涵養し、「想像力」と「健全な身体」を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

昭和 47(1972)年 3 月	学校法人御船学園設立認可 初代理事長に出田憲二就任
4 月	熊本音楽短期大学開学 音楽科（入学定員：声楽専攻 30、器楽専攻 30 総定員 120） 初代学長に出田憲二就任
昭和 48(1973)年 4 月	教職課程開設 熊本音楽短期大学専攻科開設
昭和 50(1975)年 8 月	運動場用地購入、平屋建て寄宿舎落成
昭和 51(1976)年 4 月	音楽科定員増員 （入学定員：声楽専攻 30、器楽専攻 70 総定員 200）
7 月	2 号館校舎落成
昭和 53(1978)年 2 月	女子寮 5 階建落成
昭和 56(1981)年 2 月	体育館兼演奏ホール落成
昭和 59(1984)年 9 月	3 号館校舎落成
昭和 60(1985)年 1 月	4 号館校舎落成
昭和 62(1987)年 10 月	阿蘇研修所建物落成
平成 9(1997)年 9 月	熊本音楽短期大学 25 周年記念 ニューヨーク・カーネギーホール公演
平成 11(1999)年 3 月	第 1 回九州音楽コンクールを開催
平成 12(2000)年 12 月	音楽療法士（2 種）：全国音楽療法士養成協議会認定 平成音楽大学設置認可 初代学長に出田敬三就任 音楽学部音楽学科教職課程認可（中学・高校一種免許（音楽））
平成 13(2001)年 4 月	平成音楽大学開学 音楽学部音楽学科（入学定員 100 人）
平成 14(2002)年 4 月	全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士（1 種）認定校 指定 ミュージック・プロフェッショナルコース設置
平成 17(2005)年 3 月	音楽学部幼児音楽教育学科指定保育士養成施設指定 音楽学部幼児音楽教育学科教員免許課程認可 （幼稚園教諭一種免許状） 音楽専攻科教員免許課程認可 （中学校・高等学校教諭専修免許状（音楽））
4 月	学校法人御船学園理事長に出田敬三就任 音楽学部幼児音楽教育学科開設（入学定員 30 人） 音楽学科入学定員変更（100 人→70 人） 音楽専攻科（入学定員 10 人）開設
平成 18(2006)年 7 月	音楽棟（CREA-M 棟）落成
平成 19(2007)年 10 月	コミュニティーセンター落成
平成 21(2009)年 11 月	全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士（2 種）認定校 指定
平成 22(2010)年 6 月	韓国新羅大学校芸術大学との姉妹校提携
10 月	熊本市キャンパス・サテライトステージ設置

平成 24(2012)年 4 月	附属音楽教室開講
平成 28(2016)年 3 月	幼児音楽教育学科を「こども学科」に名称変更
4 月	女子寮を閉鎖
6 月	熊本地震にて大規模な被災
平成 29(2017)年 4 月	新駐車場完成
	入学定員を変更
	音楽学科 70 人 → 60 人
	こども学科 30 人 → 40 人
11 月	御船町と連携協力に関する包括協定書締結
平成 30(2018)年 3 月	新学食・カフェ棟 MUSIC PARK 落成
令和元(2019)年 7 月	中国ハルビン学院と協力交流協定締結
8 月	新本館、トータルミュージックスタジオ完成
	旧本館復旧工事完了
令和 2(2020)年 3 月	公益財団法人熊本県立劇場と学校法人御船学園平成音楽大学の連携に関する包括協定
9 月	熊本市キャンパス・サテライトステージを閉鎖
令和 3(2021)年 4 月	学校法人御船学園理事長に出田雄人就任
令和 4(2022)年 4 月	入学定員を変更 100 人 → 80 人
	音楽学科 60 人 → 50 人
	こども学科 40 人 → 30 人

IV 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	学部	学科	コース
平成音楽大学	音楽学部	音楽学科	声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法
		こども学科	

平成音楽大学 音楽専攻科	音楽専攻	声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法
平成音楽大学 ミュージック・プロフェッショナルコース (M. P. C.)		声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、電子キーボード コンピューターミュージック

V 学校・学部・学科等の入学定員、学生数の概要

(令和4年5月1日)

学校名	学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
平成音楽大学	音楽学部	音楽学科	50	32	230	133
		こども学科	30	22	150	97
	計		80	54	380	230
平成音楽大学 音楽専攻科			10	6		
平成音楽大学ミュージック・プロフェッショナルコース (M. P. C.)			-	1		

VI 収容定員充足率

(各年度5月1日)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収容定員充足率	0.59	0.57	0.51	0.54	0.61

現員数(在籍学生数)÷収容定員(全学年の定員数)

VII 役員の概要

理事 現員8名(定員8名)うち外部理事4名

監事 現員2名(定員2名)うち外部監事2名

(令和4年5月1日)

区分	氏名	就任年月	常勤・非常勤の別	主な現職等
理事長	出田 雄人	理事就任・平成29年12月／理事長就任・令和3年4月	常勤	(学)御船学園役員
理事	出田 敬三	平成8年12月	常勤	平成音楽大学学長
理事	大島 紀雄	平成21年4月	非常勤	パールクローズ(同)営業部
理事	片桐 英夫	平成29年12月	非常勤	(株)寺原自動車学校代表取締役社長
理事	米澤 房朝	平成30年12月	非常勤	(株)ヨネザワ代表取締役社長
理事	出田 節子	令和3年1月	非常勤	(医)出田会理事長
理事	岩山 恵美子	令和3年1月	常勤	平成音楽大学副学長
理事	浦上 仁史	令和3年1月	常勤	(学)御船学園法人事務局長
監事	沖田 昌史	平成5年12月	非常勤	(福)南苑会理事
監事	中田 泉	平成29年12月	非常勤	元平成音楽大学事務局長

VIII 評議員の概要

評議員 現員 17 名 (定員 17 名)

(令和 4 年 5 月 1 日)

氏名	就任年月	主な現職等
宇都 香織	平成 28 年 4 月	平成音楽大学事務局長
村田 靖弘	令和元年 8 月	平成音楽大学トータルサポートセンター室長
永脇 信敬	令和 2 年 12 月	平成音楽大学総務部長
富永 若子	平成 8 年 12 月	ピアノ指導者、前同窓会会長
古川 寛子	平成 31 年 3 月	(一社)スタディライフ熊本代表理事、同窓会会長
野口 壮一	令和 3 年 1 月	御船町総務課長
福島 則義	平成 23 年 4 月	保護者後援会名誉会長
甲斐 田鶴子	平成 17 年 12 月	御船町文化協会事務局長
柴田 和男	平成 29 年 12 月	(株)オオバ取締役
※ 出田 敬三	平成 22 年 8 月	平成音楽大学学長
※ 大島 紀雄	平成 12 年 12 月	パールクローズ(同)営業部
※ 出田 雄人	平成 29 年 12 月	(学)御船学園理事長
野中 建光	令和元年 8 月	坂本孝臣税理士事務所副所長
山本 浩章	令和元年 8 月	(株)山本ダンボール代表取締役社長
※ 岩山 恵美子	平成 26 年 12 月	平成音楽大学副学長
亀井 裕子	平成 28 年 4 月	平成音楽大学こども学科長
河津 悦雄	令和 2 年 12 月	河津酒造(株)代表取締役会長

※は理事兼任者

IX 教職員の概要

(令和 4 年 5 月 1 日)

本務教員数 (専任教員)		計	教授	准教授	講師	
		音楽学科	12	8	3	1
		こども学科	7	4	1	2
	計	19	12	4	3	
兼務教員数 (非常勤教員)		62				
事務職員数		18				

【平均年齢】 本務教員(専任教員)62.8才、事務職員 45.5才

2. 事業の概要

I 平成音楽大学の目的

【大学の目的】 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の練磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探求
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

【教育及び研究の目的】 **音楽学部音楽学科**
音楽芸術の学修を通じて情操を高め、「豊かな感受性」と「和の心」を涵養し、「想像力」と「健全な身体」を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

II 学士課程教育における3つの方針

学士課程教育において、育成する人材像や教育上の目的に基づき、教育上の3つの方針（ポリシー）を定めている。これは「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラムポリシー（教育課程編成と実施の方針）」、「アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）」からなるもので、本学の教育目的、教育目標の実現に向けて、どのような学生を受け入れるか、また卒業までに身につけるべき能力をどのようなプログラムを通じて学んでいくかを示している。

[ディプロマポリシー]

<音楽学部>

下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。
（学びに向かう力、人間性）（生涯学習）

- 1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心を持ち、生涯にわたって、自主的、自律的に学修することができる。

<p>(知識)</p> <p>2 音楽、文化、社会についての幅広い知識を身につけている。</p> <p>(思考・判断)</p> <p>3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、課題についてさまざまな角度から考察し、適切な判断をすることができる。</p> <p>(技能)</p> <p>4 音楽の実践的技能を身につけ個性豊かな表現や独創的な創作ができる。</p> <p>(表現)</p> <p>5 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や創作物、演奏という形で表現できる。</p> <p>(社会参加の意識)</p> <p>6 大学で学んだことをもとに、地域社会の音楽文化の発展や福祉の進展に寄与する態度をもつ。</p>	
<p><音楽学科></p> <p>下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。 (学びに向かう力、人間性) (生涯学習)</p> <p>1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心を持ち、よりよい音楽表現を求めて、自主的、自律的に学び続けることができる。 (知識)</p> <p>2 音楽、文化、社会を関連づけて理解し、専門分野に関する知識を身につけている。 (思考・判断)</p> <p>3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、課題解決に向かって他者の意見を取り入れながら自らの考えを深め、適切な判断をすることができる。 (技能)</p> <p>4 専門分野における確かな基礎力を身につけ、実践の場で活かすことのできる幅広い技能を備え、創造性豊かな表現や創作ができる。 (表現)</p> <p>5 音楽に関する研究・調査の結果を踏まえ、自らの思いや意図・構想を専門分野の技能を用いて、内容が相手に伝わるように表現できる。 (社会参加の意識)</p> <p>6 大学で学んだことをもとに、地域社会の音楽文化や福祉に関心を持ち、積極的に社会貢献をしようとする態度を持つ。</p>	<p><こども学科></p> <p>下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。 (学びに向かう力、人間性) (生涯学習)</p> <p>1 音楽、文化、社会などさまざまな角度から保育・幼児教育について関心を持ち、自主的、自律的に学び続けることができる。 (知識)</p> <p>2 保育・幼児教育に関する専門的な知識とともに音楽、文化、社会など、こどもの豊かな成長・発達に必要な幅広い知識を身につけている。 (思考・判断)</p> <p>3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、保育・幼児教育における課題について深く思考し、適切な判断をすることができる。 (技能)</p> <p>4 こどもの成長・発達を正しく理解し、個に応じた創造性豊かで適切な援助ができる技能を備えている。 (表現)</p> <p>5 保育・幼児教育や音楽に関する研究・調査の結果を踏まえ、コミュニケーション力やパフォーマンス力を備えた豊かな表現ができる。 (社会参加の意識)</p> <p>6 大学で学んだことをもとに、こどもを取り巻く社会や福祉に関心を持ち、積極的に社会貢献をしようとする態度を持つ。</p>

[カリキュラムポリシー]

<p><音楽学部> 卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目」「展開科目」「発展・応用科目」の3種類の科目群を配置する。 2 専門実技科目や教養科目の他に「教職に関する科目」「音楽療法に関する科目」「保育士養成に関する科目」を配置する。 3 演奏会、発表会および社会貢献活動などを自主的、主体的に計画・運営する機会を多く設ける。 	
<p><音楽学科> 卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目群」「展開科目群」「発展・応用科目群」において個性豊かな表現や個に応じたきめ細やかな教育、音楽を用いた効果的な対人援助ができるような内容を編成する。 2 音楽性を高め、豊かな人間性を培う実技科目や教養科目とともに、指導者、対人援助者としての確かな専門性を身に付けるために、「教職に関する科目」「音楽療法に関する科目」を配置する。 3 音楽性や専門性を伸ばし、社会貢献の意識を高めるために、演奏会や発表会及びメディアや教育・療法の現場などでの多様な活動の場を設定する。 	<p><こども学科> 卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目群」「展開科目群」「発展・応用科目群」において個に応じたきめ細やかな保育援助ができるような内容を編成する。 2 音楽性を高め、豊かな人間性を培う実技科目や教養科目とともに、保育者としての確かな専門性を身に付けるために、「教職に関する科目」「保育士養成に関する科目」を配置する。 3 音楽性を伸ばし、社会貢献の意識を高めるために、演奏会や発表会及び保育現場などでの多様な活動の場を設定する。

[アドミッションポリシー]

<p><音楽学部> 以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽を愛好し、社会における音楽の必要性や重要性を理解している人 2 自らの意志で行動し、自主的・自律的に学修することに意欲のある人 3 高等学校までの学習課程で、身につけなければならない基本的な知識・技能を身につけている人 4 大学での学修を通して、専門的な知識・技能、高度な思考力・表現力を修得することに意欲のある人 	
<p><音楽学科> 以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽文化を探究し、音楽のよさ、美しさを伝えることに興味や意欲のある人 2 音楽美を探究したり、音楽を用いて人と関わったりすることに、意欲をもって自ら学ぼうとする人 	<p><こども学科> 以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 こどもの音楽文化を探究し、音楽の楽しさを伝えることに興味や意欲のある人 2 こどもが好きで、こどもと関わることに意欲をもって自ら学ぼうとする人

<p>うとする人</p> <p>3 高等学校までに習得する基本的な知識・技能や音楽に関する基礎的な知識・技能を身につけている人</p> <p>4 大学での学修を通して、次の力を習得することに意欲のある人</p> <p>①音楽表現や音楽教育・音楽療法に関する専門的な知識・技能</p> <p>②深く思考し的確に判断する力</p> <p>③思いや意図を音や音楽、言葉を使つて的確に表現する力</p>	<p>3 高等学校までに習得する基本的な知識・技能を身につけている人</p> <p>4 大学での学修を通して、次の力を習得することに意欲のある人</p> <p>①保育に関する専門的な知識・技能</p> <p>②深く思考し、的確に判断する力</p> <p>③音楽や身体表現、言葉を使つて豊かに表現する力</p>
---	--

3つの方針（ポリシー）に基づき機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルの3段階で学習成果等を査定・評価し検証するため、令和2年度から学習成果の評価の方針（アセスメントポリシー）を定めた。

[アセスメントポリシー]

<p>平成音楽大学においては、3つのポリシーに基づき教育の質の保証と不断の改善に取り組むために、次表のように、機関レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの3段階で学生の学修成果等を査定・評価し、検証する方法を定める。</p>	<p>段階</p>	<p>入学段階 アドミッションポリシーを満たすかどうか</p>	<p>在学中（単位認定） カリキュラムポリシーに則つて学修が進められているかどうか</p>	<p>卒業時（卒業後） ディプロマポリシーを満たす人材になったかどうか</p>
<p>1 機関レベル 学生の卒業・修了率、休・退学率、卒業・修了後の進路決定状況、各種アンケート調査結果から、学修成果の達成状況を検証する。</p>		<p>機関レベル</p>	<p>○各種選抜試験 ○調査書等の記載内容 ○面談、志願理由等</p>	<p>○退学率 ○休学率 ○学生生活満足度調査 ○コンクール等参加・成績状況 ○課外活動状況</p>
<p>2 教育課程レベル 所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA・成績分布状況、卒業研究等）、資格取得状況等から、学修成果の達成状況を検証する。</p>	<p>教育課程レベル</p>	<p>○各種選抜試験 ○調査書等の記載内容 ○面談、志願理由等</p>	<p>○GPA ○単位取得状況 ○成績分布 ○出席状況 ○学修ポートフォリオ ○授業評価アンケート ○学生生活満足度調査 ○コンクール等参加・成績状況</p>	<p>○学位授与数 ○GPA ○単位取得状況 ○卒業演奏・卒業研究・卒業論文 ○資格・免許等取得状況 ○学修ポートフォリオ ○学生生活満足度調査</p>

<p>3 科目レベル シラバスに示された到達目標に対する評価及び授業評価アンケート結果等から、授業科目毎の学修成果の達成状況を検証する。</p>	<p>授業科目レベル</p>		<p>○成績評価 ○単位取得状況 ○科目合格状況 ○成績分布 ○出席状況 ○授業評価アンケート</p>	
--	----------------	--	---	--

III 管理・運営計画

平成音楽大学の使命・目的を達成するため、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年による中期計画を策定・実行している。この中期計画に基づいて年度ごとの事業計画と予算を作成し、PDCAサイクルを機能させて使命・目的の実現のため継続的な努力を行っている。

[理事の役割の明確化]

理事定数8人のうち学内理事が4人、外部理事が4人となっている。そのため学外からの視点による意見を取り入れやすい状態である。令和4年度は理事会を5回開催し、理事および監事の出席状況は90.0%と良好であった。学内理事4人による常勤理事会を11回開催し、軽微な課題はここで解決することができた。各理事の役割を総務担当、財務担当、学生募集担当、学事担当と明確に割り当てて法人の業務を行った。

[監事機能の充実]

監事は会計年度始めに監査計画書を作成し、これに沿って法人の業務、財産の状況、理事の業務執行の状況について監査を行った。監査にあたっては会計監査人と定期的に情報交換を行うとともに、関連部署の担当者より状況を聴取するなどして充実させている。

[評議員会機能の充実]

予算・事業計画をはじめとする法人の業務に関する重要事項について、理事会における決議の前に、理事長があらかじめ評議員会の意見を聴いている。また、決算及び事業の実績について、会計年度終了後2月以内に理事会における決議を経た後、評議員会へ報告し意見を求めている。令和4年度は4回開催し、評議員の評議員会への出席状況は86.8%と概ね良好であった。

[内部質保証]

内部質保証は「大学自らの自己点検・評価」と「認証評価機関による認証評価」による。大学における教育研究の質保証は、大学と文部科学省、及び認証評価機関の3者によって担うことになる。

「大学自らの自己点検・評価」は、自己点検・評価委員会、FD委員会とIR室が連携し、おもに「学生による授業評価アンケート」「学生満足度調査」「卒業年次生への意識調査」の集計結果の分析、アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜結果の検証、GPA分布の分析等により行った。

「認証評価機関による認証評価」については、令和4年度に7年に1度となる受審をして、

日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていることが認められて適合の認定を受けた。

[外部評価委員会]

自己点検・評価と内部質保障に資するために平成音楽大学外部評価委員会を設置した。委員は学外の有識者として御船町教育委員会教育長、同学校教育課指導主事、熊本県立御船高等学校校長、社会福祉法人恵寿会統括施設長らに委嘱した。本学の教育活動に関わりを持ち、日常的に観察しながら客観的に評価することができることを条件とした選任となっている。会議は5月26日、9月20日、3月8日の3回行い、学生に対してディプロマポリシーで積極的な社会参加を意識づけしている点や、留学生の積極的な受け入れ、声優コース開設などの新たな取り組みを高く評価された。また PDCA サイクルが回っていることを可視化できるシステムの構築が必要であるなどの意見が出され、設置目的を十分に果たすものとなっている。

[50周年記念事業]

令和4年度は学校法人御船学園創立50周年となるために記念事業を計画した。祝賀会については新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催は困難と判断して、寄付金の募集と記念演奏会の開催を計画した。

寄付金は「夢を奏でる応援金」として9月に募集を開始し、3月末までに総額453万円となり3年計画における目標額の15%を達成した状況となった。

記念演奏会は12月8日に熊本県立劇場において「華麗なる音楽の祭典」を開催した。3年ぶりに観客を迎えて行う演奏会として1400人を超える来場者があった。

IV 教育活動

[コロナ禍における授業]

令和4年度は新型コロナウイルス感染症が収束に向かう中、感染予防対策を十分行いつつ、すべての授業を対面で行うことができた。また、特別な理由で対面授業が難しい一部の学生に対しては、これまでに培った遠隔授業のノウハウを生かし、対面とオンラインのハイブリッド授業の構築も進めるなど、多様化する学生への対応の一環とすることができた。

[演奏活動]

令和4年度は少しずつ音楽活動の制限が緩和され、8月には「第2回くまもと復興国際音楽祭・オープニングコンサート」への参加、12月には恒例行事である「華麗なる音楽の祭典」を創立50周年記念演奏会として3年ぶりに観客を迎えて実施した。また、各コース・学科の学修成果発表の場として「ピアノフェスティバル」「音楽制作コンサート 音・創造」「ヴォーカルサロンコンサート」「こども学科ミュージックフェスティバル」などもプログラム内容や入場制限の実施などの対策を講じながら開催した。

さらにスクールコンサートやイベントも少しずつ再開され、学生が演奏を披露する機会も徐々に戻り始めた。そして3月に開催した「第25回記念九州音楽コンクール」にも多くの学生が参加し、最優秀賞をはじめ上位入賞者を輩出することができた。

〔FD活動〕

(授業改善のためのアンケート調査)

教育目的の達成状況を点検評価するための方法を工夫・開発するため、平成18年度からFD委員会による全開設科目における学生への授業評価アンケートを実施している。令和4年度も教育目的の達成状況を学年ごと、授業ごとに点検・評価するため、前期と後期それぞれに授業評価アンケートを行った。

学生自身の取り組み方についての「出席状況」「授業態度」「事前・事後学修」「シラバス閲覧の有無」、教授方法についての「授業の進め方」「教員の熱意」「説明や助言の適切さ」「質問への対応」「話し方の適切さ」「創意工夫」「授業内容に関する興味・関心や視野の広がり」を質問し、最後に「授業への理解度・満足度」を問うもので、要望や感想の自由記述欄も設けている。

(授業公開)

例年学期ごとに授業公開の期間を設けて全ての教員が授業公開を行うことにしているが、コロナ禍により令和4年度は音楽学科とこども学科それぞれが2つの授業を選定し、各学科所属教員全員が当該授業を参観した。参加者は配付された授業プログラムにより参観し、終了後の授業検討会では指導の意図や工夫点と学生の反応・様子をもとに、改善点について意見交換を行った。

V 学修支援体制

〔奨学金制度〕

入学試験の成績優秀者に対して行う特待生制度のほか、在学生の成績優秀者に対する特別奨学生制度などにより令和4年度は1,191万円の奨学支援を行った。

種別	対象者数	金額
特待生	音楽学科 28人 こども学科 3人	995万円
学長奨励生	音楽学科 4人 こども学科 2人	50万円
卒業生子女入学	音楽学科 2人	20万円
専攻科・MPC 入学金免除	専攻科生 6人 M.P.C. 1人	126万円

令和5年度入学者選抜からは新たに「経済支援奨学金制度」を新設して7人を対象者として選考した。

〔相談室、学校医・養護教諭〕

健全で快適な学生生活をサポートするために相談室を設置し、専門のカウンセラーと専任教員がその任にあっている。また学校医や養護教諭にも常時相談できる体制を整えている。年度初めにはUPI（精神健康調査）を行ってそれぞれの学生に応じた対応をしている。

令和3年度は相談件数が前年度の1/3ほどに減少し42件となっていたが、4年度は87件と約2倍に戻っている。直近3年間において件数が大きく変化していることは、コロナ禍であ

ったことが影響していると考えられ、年度比較ができない状況となっている。

	相談件数	相談する手段（割合）		相談内容（割合）	
前期	36	対面	55.6%	心身健康	31.3%
		電話	16.7%	対人関係	12.5%
		メール、ライン	27.8%	進路・就職	18.8%
				家庭生活	6.3%
				修学	31.3%
後期	51	対面	49.0%	心身健康	40.0%
		電話	11.8%	対人関係	10.0%
		メール、ライン	39.2%	進路・就職	20.0%
				家庭生活	5.0%
				修学	25.0%

[キャリア支援]

学生のキャリアサポートのために説明会や相談会を当初の計画通りに実行した。

- a. 全学年に進路希望調査を実施（4月）
- b. 就職委員による学生への個人面談の実施（7月、11月）
 キャリア講座の実施
 - ・株式会社マイナビによる就職支援講座（6月）
 （就職活動に向けての準備講座）
 - ・株式会社リクルートキャリアによる就職支援講座（10月）
 （就職活動に向けての自己分析と自己PRの作成）
- c. 企業団体説明会の実施
 - ・自衛隊説明会（音楽隊含む）（5月）
 - ・ヤマハ企業・グレード説明会（6月）
 - ・カワイ企業・グレード説明会（7月）
 - ・熊本県保育協会保育士就職説明会（10月）
- d. 就職委員による個別面接指導
 進路・就職状況（令和4年度卒業者）

学科	卒業	進学	就職	その他
音楽学科	24	10	10	4
こども学科	26	0	24	2
学部計	50	10	34	6

〔入学定員・収容定員充足率〕

令和4年度の入学者数は前年度比10名減の54名であったが、在籍学生数は前年度比15名増の230名となった。高等教育の修学支援新制度含む特別補助交付の機関要件を満たすためには収容定員充足率80%を達成する必要がある、その目標達成のために令和4年度より入学定員を80名に引き下げた。これに伴い令和4年度の収容定員は380名となり、収容定員充足率は60.5%となった。

〔学科名変更及び新コース設置〕

令和5年度からこども学科の名称を未来創造学科と改めて、こども文化コースと声優コースの2コースを設置することを決めた。これは幼児教育・保育をベースとしながらも既存の価値と新しい価値を融合させることによって、従来であれば本学への入学を視野に入れていなかった受験生を取り込んでいくことが狙いである。声優コース新設の背景には昨今のアニメ産業マーケットの拡大、熊本でのポップカルチャーの高揚、また本学既存資産と声優養成ビジネスの相性の良さが挙げられる。こども文化コースで20名程度、声優コースで10名程度、未来創造学科で計30名程度の入学者を目標とし、令和4年度4月より募集活動を開始した。結果としてこども文化コースで13名、声優コースで13名、未来創造学科全体では26名の受験生を迎えることができた。

〔奨学金制度新設〕

本学独自の奨学金として「経済支援奨学金制度」を新たに設置した。これは家庭の経済状況に鑑みて免除額を決定する給付型の奨学金制度である。令和4年度は9名の受験生がこの制度の利用を希望し、選考の結果7名が制度適用対象者となった。

〔学生募集のための体制構築と広報の強化〕

以前より課題となっている資料請求数や来校者数の底上げに注力した。資料請求数を増やすために令和3年度より進学者のネット媒体に情報を掲載した結果、令和2年度に55件だった資料請求が、令和3年度に303件、令和4年度には649件にまで増加した。またオープンキャンパスについては令和3年度から開催回数を増やしたことにより、令和2年度に188件だった参加者数が令和3年度は258件、令和4年度は438件まで増加した。その他、夏期講習会・適性診断・平日キャンパス見学・オンライン受験相談などの各種イベントも引き続き実施した。

WEB周りの強化に関して、令和3年度は公式ホームページをフルリニューアルし、ユーザーに与えるイメージの刷新を図った。また令和2年度より更新を再開したInstagramも堅調であり、令和2年度に約400だったフォロワー数は令和3年度には600、令和4年度には800近くまで増加した。

高校訪問は令和3年度から継続して複数の教職員が担当している。「指定校しか選択肢に入っていない生徒がいる」という高校現場の声を受け、訪問の際の新たな取り組みとして指定校の数を増やすことに注力し、令和2年度の380校から令和3年度には653校、令和4年度には704校まで増加させた。その結果、これまで受験実績のなかった完全新規校からの受験が令和3年度には10件、令和4年度には4件発生した。

留学生募集についても引き続き力を入れており、令和4年度には4名の受験があった。これによって令和5年度の留学生在籍者数は全学年合計で13名となる。

VII 社会連携

〔御船町との包括協定〕

本学と御船町が、町の社会、経済等の活性化および課題解決に関し、双方の知的・人的資源を活用するとともに、大学と御船町とが相互に連携協力することにより、活力ある豊かな地域社会の形成および発展に寄与することを目的として平成29年に協定を締結している。

定例の連絡調整会議を年3回ほど実施し今後の連携事業内容を協議しているが、新型コロナウイルスの影響もあり活動が中々進まないという状況である。

包括協定に基づき令和2年に「学生の学修支援ボランティア派遣に関する覚書」をかわし、学生による学校教育支援ボランティア活動に取り組んでいる。令和4年度は、教職課程を履修している学生、26名が町内の中学校（1校）・小学校（4校）・社会教育団体（1団体）の支援活動を行った。

10月下旬から11月下旬まで長期に及ぶ御船町主催「復興音楽祭」では、音楽祭の最後を飾る「Ending Ceremony」の内容企画、当日の運営にも多くの学生がボランティアとして参加した。今後はインターンシップとして取り組むことを視野に入れることとする。

VIII 校地・校舎の状況

〔校地〕

昨年度所有分	増加分	減少分	本年度所有分
35,834 m ²	0 m ²	0 m ²	35,834 m ² （内借用1,162 m ² ）

〔校舎〕

昨年度所有分	増加分	減少分	本年度所有分
10,882 m ²	0 m ²	0 m ²	10,882 m ²

3. 財務の概要

別資料 【御船学園】R4 財務計算に関する書類